

令和6年度 秋期特別展

水と暮らすの風景史

古地図と景観がひらく飛鳥



開館時間 9時～16時30分(入館16時まで)
 入館料 一般350円、大学生200円、70歳以上・高校生および18歳未満無料※11月3日(日)は無料入館日

休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌平日)
 休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌平日) ※11月3日(日)は無料入館日

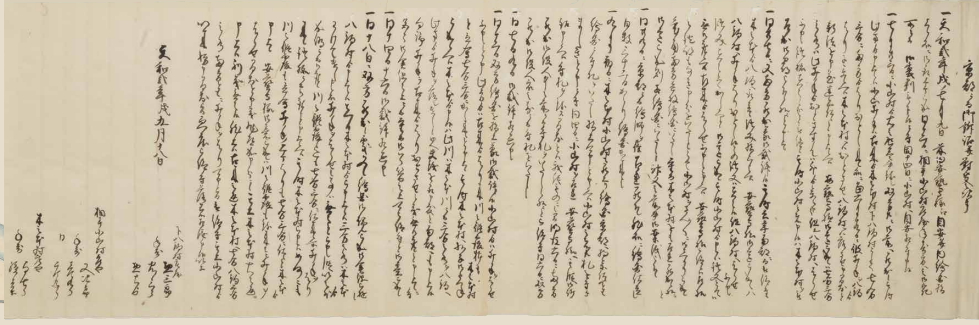
下八郡村・小山村町・川上郡・水鏡立金線園(旧日香村小山村所有)
 主催 | 独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 飛鳥資料館
 後援 | 文化庁・近畿日本鉄道株式会社

奈良文化財研究所 **飛鳥資料館**

令和6年 **10.4(金) - 12.1(日)**

〒634-0102 奈良県高市郡明日香村奥山 601 TEL 0744-54-3561





京都二御訴訟并対決之次第(標原市下八釣町所有)

令和6年度 秋期特別展

古地図と景観がひらく飛鳥

宇賀川附近略図(明日香村小山大字所有)

たたなづく青垣の山々から飛鳥の盆地へと注ぐ溪流の水は、古代の庭園の噴水や漏刻台の水時計の施設にも使われてきました。奈良時代以降、飛鳥がしだいに農村へと姿を変えるなか、水は地域の人びとの暮らしや営みを支える財産として大切にされてきたのです。人びとは古代の水路を引き継ぎ、野や山に田や畑を開き、そしてときには水不足に苦しみながらも、「日本の原風景」とも讃えられる田園の風景を育んできました。古代人の知恵に由来する水路やため池、江戸時代から守られてきた用水の配分の工夫、水辺に臨んで繰り広げられる伝統行事など……。飛鳥の風景には、移り変わる古都の自然や社会と向き合い、水とともに歩んできた人びとの足跡が刻まれているのです。

今回の特別展では、江戸時代から明治時代の古地図・古文書のほか、現地でおこった文化的景観の調査成果などを中心として、水を活かして営まれてきた飛鳥の暮らしと風景の来歴・魅力を読み解きます。本展が、飛鳥の歴史的風土の“これまで”と“これから”を考える機会となれば幸いです。

関連講演会
 「飛鳥のみかた」
 会場 飛鳥資料館講堂
 開演 13:30 (13:00 開場)
 終了 14:30 頃
 ※事前申し込みは不要です。参加には観覧料が必要です。

第一回 10月12日(土)
 講師 恵谷浩子(奈良文化財研究所文化遺産部)
 田んぼの見方
 明日香村の灌漑システムを読み解く

第二回 11月2日(土)
 講師 竹内祥一朗(奈良文化財研究所飛鳥資料館)
 古地図の見方
 江戸・明治の飛鳥の風景を読み解く

〈アクセス〉
 ・近鉄橿原神宮前駅・飛鳥駅から明日香周遊バス(赤かめ)で「明日香奥山・飛鳥資料館西」下車
 ・近鉄・JR 桜井駅から奈良交通バス(36系統:明日香奥山・飛鳥資料館西行)で「飛鳥資料館」下車
 駐車場: 無料 普通車 10 台分(近隣に有料駐車場あり)

- 展示構成
- 1章 宮都から農村への足跡
平京城遷都以降の水田と水源の開発史を振り返る
 - 2章 水争いと古地図の世界
農業用水をめぐる対立と調整を歴史資料で紐解く
 - 3章 水と生きる飛鳥の作法
現在の田園風景を支える要素としくみを読み解く

ギャラリートーク
 10月10日(木)、11月21日(木) 14:00 -
 ※事前の申し込みは不要です。

ウォークイベント
 奈文研研究員と歩く飛鳥
 「水と暮らしの風景をたどる」
 11月9日(土) 13:00 - 15:00
 集合場所 | 飛鳥資料館 特別展示室前
 解散場所 | 奈良文化財研究所藤原宮跡資料室
 定員 | 20名
 申込締切 | 10月31日(木)
 ※参加には観覧料と事前の申し込みが必要です。
 申込み方法などの詳細は当館ウェブページをご覧ください。



同時開催
 「文化的景観 20 年記念パネル展」
 会場 | 飛鳥資料館 1F ロビー



遺跡で見つかった飛鳥時代の土管暗渠



天香久山付近(入江泰吉記念奈良市写真美術館提供)



豊作を願って苗代田に供えられた草花

